

（１）大学・学科の設置理念

①大学

学校法人冬木学園は昭和21年開校の冬木文化服装学院から始まる。桜井女子高等学校（現関西中央高等学校）、桜井女子短期大学（平成19年3月廃止）を経て、さらに高度な人材育成に取り組むべく平成15年4月に畿央大学を開設した。当初は健康科学部のみであったが、平成18年4月に教育学部を開設。現在では2学部5学科を有している。

冬木学園は、建学の精神として「特をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」の3つの理念を掲げてきた。これは、豊かな人間性を追究することこそが教育の最終目標であるとする考え方に立ち、創立以来一貫して精神的支柱とし、あらゆる教育活動において大切にして取り組んできた理念である。

「徳をのぼす：豊かな人間性、コミュニケーション力と思いやりの心を身につける」

住みよい社会をつくるためには、先ず個々に敬愛の念をもち、お互いの幸せを願い、恵みを与えあう心を養わなければならない。すなわち小さい徳を積み、広く社会を潤していく精神を養いたい。

「知をみがく：科学的認識に支えられた知性とたゆまぬ探究心を培う」

人間の進歩向上とは、自己の才能を最大限に練磨することである。知識欲を失えばただ退歩あるのみである。私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養成したい。

「美をつくる：豊かな感受性をもち創造する力を磨く」

すべての優れた技術は、この世の中にすばらしい美の贈り物をするができる。美しいものは見る者の心を澄まし、喜びとやすらぎを与えてくれる。私達の手で、日々ひとつでも多く、美しいものを創造していきたい。

畿央大学ではこの精神を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な学識・技術を身につけ、地域社会および国際社会の発展に創造的に貢献できる有意な人材を育成することを目的としている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や、人工知能（AI）の飛躍的な進化をはじめとする絶え間ない技術革新等により、私たちの社会は大きく、急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。これからの教育は、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、個人と社会の豊かな成長を創造することのできる人間の育成が求められている。

本学教育学部現代教育学科では、建学の精神を教育の基本とし、現代の教育課題に真摯に取り組み、それらを協働して解決していくための「信念」「知識」「実践力」を兼ね備え、教育に関する幅広く高度な専門的知識、実践的な課題解決能力、そして健全な心身と豊かな人間性を持った教育専門家の育成に取り組んできた。

具体的には、生命への畏敬の念や教育に携わる者としての倫理観、子どもに対する理解・愛情を育むこと。協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むこと。現代の教育課題に対する理解と豊かな教養を身につけること。教育の専門家として、教育に関わる諸理論、子どもの発達、

各教科・領域の内容や指導法、学校保健等についての専門的な知識を修得させること。高度専門職業人として必要な情報収集・処理能力やプレゼンテーションスキルを身につけさせること。グローバル化時代への対応や特別な支援を必要とする子どもへの対応といった新たな教育課題への対応力を育てること。実習や演習を充実させ、授業や保育等の実践力やマネジメント力を養うこと。生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を育成することなどである。

特に、本学では2014年度から全学生にノートPCを貸与し、学修に活用させているとともに、2021年度に大学として「数理・データサイエンス・AI教育プログラム リテラシーレベル（MDASH）」の認定を受けたことをきっかけに、本学科のすべての学生にデータサイエンスの知識・技能・思考力を身に付け、ICT を活用する問題解決能力を育むことに取り組む計画を進めているところである。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

畿央大学は健康科学部・教育学部の2学部から成る。このうち、教育学部には既に幼稚園教諭・小学校教諭・中高英語教諭・養護教諭・特別支援教諭の課程を有しており、今回新たに中高数学課程の開設を申請するものである。また、健康科学部には看護医療学科に養護教諭課程、健康栄養学科に栄養教諭課程、人間環境デザイン学科中高家庭科教諭課程をそれぞれ有している。

情報化やグローバル化が進展し、様々な考え方や多様な価値観が広がる中で、人々の絆やつながりがますます重要となっている。そうした変化に対応しながら、自立した1人の人間として、他者とともによりよく生きていこうとする子どもの育成が、教員に求められている。

畿央大学における教員養成は、生命への畏敬の念と子どもに対する深い理解と愛情を持ち、専門的な知識と実践力を備えた”タフで元気な教員”の養成を目指している。教育理論や専門知識、教科等の概論や指導法とともに、学校インターンシップをはじめ、子どもとかかわる多くの体験の機会を設けることで、様々な教育課題に対して「チーム学校」の一員としてコミュニケーション力を発揮しながら解決していこうとする実践力や、生涯にわたって学び続ける態度を備えた教員の養成を行っている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育学部現代教育学科は、建学の精神を教育の基本とし、広い視野に立って教育について考え、実践できる人材を育てることを目的としている。このため教養科目においては豊かな人間性を養うために授業科目「生命倫理」を必修とし、授業科目「西洋哲学」「東洋思想」の履修を推奨して、人間や思想について省察し、探求する力を養うことをめざしている。また専門科目においては優れた教育の専門家を育成するという目的のもと、教育学固有の知識や方法論とそれを実践するスキルの習得をめざす授業科目「各教科の実践演習（別名「つくろう科目」）」を用意している。また、現代社会の教育課題や教育要請に対応すべく多様な子どもの問題にせまる授業科目「特別支援教育入門」や電子媒体を通しての教育実践など情報に強い教員を養成するための授業科目「プレゼンテーション実践」「プログラミング教育実践」を開講している。

これからの教員養成においては、使命感や責任感、教育的愛情をもち、個々の知識・技能等を有機的に統合し、教科指導や生徒指導等を実践できる資質能力を備えた教員の養成が求められている。それは、知識だけが豊かな教員ではなく、実践的・総合的な能力をもつ“タフで元気な教員”である。教員の養成に当たっては、大学内での指導だけでなく、学校現場での実践的な経験が有効であり、教育実習がその役割を果たしてきた。

しかし、これまでの教育実習だけでは期間が短く、実際、実習の最初は学生という受け身的な立場

で参加し、教員としての視点を持ち始めるころには実習が終了してしまうという状況も見られる。また、大学での教職に関する授業の中でも、実務経験のなさから、教員の視点で事象を捉えることが難しく、結局、教員として学校に赴任してから「教員とは」「授業とは」を学ぶという状況にある。しかし、新任といえども教員には学校に赴任した瞬間から他の教員と同等の責任ある仕事が行っている。そこでは、一人前の教員としてすぐに授業を進め、かつ子どもや保護者が抱える問題に積極的に対応する“タフで元気なプロ教員”が求められている。その際、教員としての視点だけでなく、子どもの視点を持つことも、指導の幅を広げる上で重要である。そこで、学生の段階で、学校現場での経験を豊かなものにし、教員の視点・子どもの視点を持つことおよび教員の仕事・授業のあり方・学校における課題を知ることを実現するために、教育実習だけでなく、周辺から段階的に教員の仕事に近づいていくという実学経験が有効であると考えられる。

教育学部現代教育学科では、学生にできるだけ教育現場を経験させるために1回生に「幼児教育実践論」や「小学校一日見学」など、学生が、教員の仕事への憧れを高め、生の教育現場の概要を知ることのできる科目を設置している。さらに、2回生時には、近隣市町教育委員会と協定を締結し学生を学校に派遣する「学校インターンシップ」の科目を設置している。学校インターンシップへの参加は、学生や大学にとって学校現場を広く体験し、理解を深めることになるとともに、学生が自分の適性を見極めることや、教職にかかわる実践的な力を磨くなどの利点があり、教育委員会や地域の学校にとっては、支援を要する子どもへの多様で個別的なかわりが可能になるだけでなく、学校を活性化させるという利点をもっており、学生・大学と教育委員会・学校の双方にとってメリットが大きい連携事業として成果が上がっている。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

<中学校教諭一種免許状（数学）>

現代社会の基盤形成に関わり、日本の発展に直結する数学教育は重要である。中学校における数学の学習は、生徒が知的に思考する際の大切な契機となり、数学的知識を活用することを通して論理的思考力を高めていくことにつながる。数学教育においては論理的思考力を高めながら、分析力といった力量形成、データサイエンスにつながる基本的知識、数学の各専門科目における汎用的・抽象的思考力を育成していくことを目指す必要がある。このような力は、数学に関心をもちにくい生徒、苦手とする生徒に、日常や数学の事象における具体例を踏まえながら、数学の意義や必要性を筋道立てて説明する力にもなる。また、現代科学技術の基礎としての数学の役割を理解しながら、代数学・幾何学・解析学・確率、統計学・コンピュータの専門的な知見と、中学校数学の内容を理解した指導法を有することは、次の世代に質の高い学びを確かな形で引き継ぐことができる教員を養成することが可能となり、より専門的な実践力を備えた人材の育成にもつながる。

以上の理由により、本学科に中学校教諭一種免許状（数学）の取得が可能な課程を設置する。

<高等学校教諭一種免許状（数学）>

高等学校における数学の学習は、生徒の知的成長を促す重要な役割をもっており、持続可能な社会の担い手としての原動力、生涯にわたって学び続ける探究力を高めていくことにつながる。数学教育においては探究を通して、多様な数理的・数学的知識の習得力、論理的思考力、分析力といった力量形成、データサイエンスにつながる基本的知識、数学の各専門科目における汎用的・抽象的思考力、論理的思考力を育成していくことを目指す必要がある。数学の専門分野である代数学・幾何学・解析学・確率、統計学・コンピュータの知見に加え、高等学校数学の内容を理解した指導法を有することは、より専門的な実践力を備えるとともに、探究力と協働的な問題解決力、科学的な根拠を意識した批判的思考力を有しながら生涯に渡って学び続ける人材の育成につながると共に、次の世代に質の高

い学びをより確かな形で引き継ぐことができる教員を養成することが可能となる。

以上の理由により、本学科に高等学校教諭一種免許状（数学）の取得が可能な課程を設置する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教務委員会
目的：	教職課程を含めた大学全体の教務に係る事項の審議及び学部・学科間の教務に係る連絡調整等を行う。
責任者：	教育学部長 教授
構成員（役職・人数）：	委員長 1名（教育学部長 教授） 委員 10名（健康科学部長 教授、健康科学部理学療法学科長及び主任 ともに教授、同学部看護医療学科長及び主任 ともに教授、同学部健康栄養学科長及び主任 ともに教授、同学部人間環境デザイン学科長及び主任 ともに教授、教育学部現代教育学科長 教授） 事務 4名（大学事務局長兼教育推進部長、同次長及び課員 2名）
運営方法：	原則としては月 1 回の定例開催だが、それ以外にも大学全体の教務に係る議題が生じた際には委員長が委員を招集し、運営にあたる。

②

組織名称：	教職課程専門委員会
目的：	教務委員会の下に位置し、特に教職課程に関する事項の審議及び学部・学科間の教職課程に係る連絡調整等を行う。
責任者：	教育学部現代教育学科長 教授
構成員（役職・人数）：	委員長 1名（教育学部現代教育学科長 教授） 委員 4名（健康科学部看護医療学科 教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 准教授） 事務 3名（教育推進部次長及び課員 2名）
運営方法：	教職課程に関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

③

組織名称：	教育実習等専門委員会
目的：	教務委員会の下に位置し、教育実習や保育実習、介護等体験等に関する事項の審議及び学部・学科間の教育実習・介護等体験等に係る連絡調整等を行う。
責任者：	現代教育学科 教授
構成員（役職・人数）：	委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授） 副委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授） 委員 10名（健康科学部看護医療学科 教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 教授 3名、准教授 3名、講師 1名） 事務 3名（教育推進部次長及び課員 2名）

運営方法：教育実習や保育実習、介護等体験等に関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

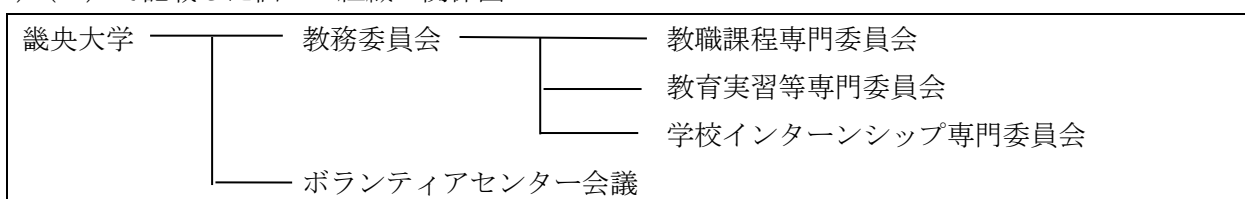
④

組織名称：	学校インターンシップ専門委員会
目的：	教務委員会の下に位置し、学校インターンシップ（単位化している）に関する事項の審議及び実習校・教育委員会との連絡調整、実習生の割り振り、実習中の指導、事前・事後指導等を行う。
責任者：	現代教育学科 講師
構成員（役職・人数）：	委員長 1名（教育学部現代教育学科 講師） 委員 6名（健康科学部看護医療学科 教授、同学部健康栄養学科 教授、同学部人減環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 教授 1名、准教授 2名） 事務 2名（教育推進部次長及び課員）
運営方法：	学校インターンシップに関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

⑤

組織名称：	ボランティアセンター会議
目的：	学校ボランティア（単位化していない）を含むボランティアに関する事項の審議及びボランティア先との連絡調整、学生へのボランティア先への紹介、ボランティア中の指導を行う。
責任者：	現代教育学科 准教授
構成員（役職・人数）：	委員長 1名（教育学部現代教育学科 准教授） 委員 5名（健康科学部理学療法学科 助教、同学部看護医療学科 講師、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人減環境デザイン学科 准教授、教育学部現代教育学科 講師） 事務 3名（教育推進部課員）
運営方法：	学校ボランティアを含むボランティアに関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

（２）（１）で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ．都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

（１）教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・包括的な連携協力に関する協定を、奈良県内の大和高田市、香芝市、広陵町、宇陀市、上牧町、

斑鳩町、田原本町、安堵町等の自治体と締結し、教育及び研究の充実・発展に資することができるようにしている。また、大阪府八尾市とも学校インターンシップに関する協定を締結している。

・複数の教員が教育委員会における研修講師や基本計画策定委員等を努め、地域の教育施策に積極的に寄与している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校インターンシップ
連携先との調整方法：	希望者は「学校インターンシップ専門委員会」において提携先の大和高田市・広陵町・香芝市・宇陀市・上牧町・安堵町・田原本町・斑鳩町・八尾市の各教育委員会に受け入れを依頼し、調整の上で各自治体の幼稚園・小学校・中学校に割り振りを行う。
具体的な内容：	学生には各校・園での活動（授業支援、自習支援、給食・清掃時間への参加など）のほか、大学内で実施される「事前研修会」「中間報告会」「期末報告会」への出席を義務付け、併せてレポート課題の提出も求めている。これらすべてを終えた者にのみ単位が与えられる。

取組名称：	学校ボランティア
連携先との調整方法：	学校インターンシップに関して提携を結んでいる自治体以外のところでの活動や、柔軟な日程編成での活動を希望する学生が自身で活動先を見つけて行う。
具体的な内容：	活動内容は個別に異なるが、主に授業支援、自習支援、給食・清掃時間への参加などである。なお、「ボランティアセンター」においては、その活動に関する情報提供及び推奨・支援を日常的に行っている。

Ⅲ. 教職指導の状況

- ・大学教務委員会の中に「教職課程専門委員会」を設け、履修カルテや教職実践演習をはじめとして、教職に関わる内容について対応している。
- ・全学組織として、「教育実習等専門委員会」を設け、教育実習や介護等体験に関わる指導の対応や調整を行っている。
- ・全学組織として、「学校インターンシップ専門委員会」を設け、実習校・教育委員会との連絡調整、実習生の割り振り、実習中の指導、事前・事後指導を行っている。
- ・全学組織として、「ボランティアセンター会議」を設け、ボランティア先との連絡調整、学生へのボランティア先の紹介、ボランティア中の指導を行っている。
- ・事務局部署として「教採・公務員対策室」を設け、特に教育学部の教員との連携を密にしながら、教職経験者による教員採用試験ガイダンス、個別指導、対策指導、講師等の登録指導を行っている。また、全学組織として「教採・公務員対策室運営委員会」を設け、教採・公務員対策室の取り組みについて全学としての連携や評価を行っている。
- ・本学は担任制をとっており、個々の学生の進路希望や履修計画、履修状況を把握し、適宜指導を行っている。

様式第 7 号ウ

<現代教育学科> (認定課程: 中一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	中学校数学科教員の資質として必要となる、数学に関する基本的な知識・技能を修得するとともに、数学教育に関する学習内容の整理を行い、論理的な思考力を身につけながら指導内容の修得に努める。
	後期	中学校数学教育の資質として必要となる、数学に関する基本的な知識・技能を修得するとともに、数学教育に関する学習内容の理解と、数学的活動を通して論理的な思考力と表現力を身につけながら指導内容の理解の充実を図り、修得に努める。
2 年次	前期	中学校学習指導要領を基にして、高等学校数学との接続について理解するとともに、資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基本的な知識と数学的な見方・考え方を身につけ、学年発達や教材観等を考慮した指導の意義について理解する。
	後期	高等学校学習指導要領を基にして、中学校数学と関連する内容、各学年・科目の領域の内容と数学的な見方・考え方を理解するとともに、資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基礎的な知識と数学的な見方・考え方を身につけ、協働的な学びによる教材研究、学習指導案の作成を通して理解を深める。
3 年次	前期	小学校算数と中学校数学における系統性に留意するとともに、その発達段階に応じた数学的活動の在り方を踏まえ、中学校数学における主体的・対話的で深い学びを目指した各内容に関わる教材研究、学習指導に関わる幅広い知識・技能、学習指導の方法、評価の方法について理解する。
	後期	中学校・高等学校の数学科授業における効果的な学習指導、効果的な授業展開、効果的な教材について理解するとともに、数学教育における数学の実用的・応用的側面をふまえた指導内容の必要性について理解を深める。
4 年次	前期	授業デザインをする考え方を踏まえ、中学校数学科授業における学習指導や教材開発の意義について理解するとともに、模擬授業を通して「教育実習」を想定して実践力を身につけ、事象を数理的に考察し数理を日常生活に活用する意義を理解する。
	後期	中学校の数学教育における数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの必要性を理解するとともに、論理的に議論するスキルと「教育実習」を通して身につけたスキルを踏まえ、実践力の強化と修得に努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜現代教育学科＞（認定課程：中一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目		大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 C		教職概論	代数学Ⅰ		スポーツ実習A	
					幾何学Ⅰ		英語コミュニケーションA	
							情報処理演習Ⅰ	
	後期	2 B		教育原理	代数学Ⅱ		スポーツ実習B	幼児教育実践論
		2 E		教育心理学	解析学Ⅰ		運動の科学	小学校一日見学
		2 G		教育課程論			情報処理演習Ⅱ	数理科学入門
								算数科概論
2年次	前期	1 A		数学科指導法Ⅰ	幾何学Ⅱ			西洋哲学
		2 E		発達心理学	確率・統計学Ⅰ			学校インターンシップ
		2 F		特別支援教育入門A	コンピュータ概論			統計の基礎
		3 IQ		教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	プログラミングⅠ			算数学
		3 R		ICT活用の理論と実践				
	後期	1 A		数学科指導法Ⅱ	解析学Ⅱ		日本国憲法	東洋思想
		3 J		特別活動指導法（中等）	プログラミングⅡ			算数科指導法
		3 M		教育相談（中等）				
3年次	前期	1 A		数学科指導法Ⅲ	確率・統計学Ⅱ			生命倫理
		3 LN		生徒・進路指導論	情報と社会			プレゼンテーション実践
								数学史
	後期	1 A		数学科指導法Ⅳ	曲面論・多様体論			プログラミング教育実践
		2 D		教育法制論	微分積分学			数学的リテラシー
		3 H		道徳指導法（中等）	学校データとセキュリティ			
4年次	前期	4		数学科教育実習（中）				算数科実践演習（つくろう！算数科）
								算数・数学における学習者のメタ認知
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

＜現代教育学科＞（認定課程：高一種免（数学））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	高等学校数学科教員の資質として必要となる、数学に関する基本的な知識・技能を修得するとともに、数学教育に関する学習内容の俯瞰を行い、論理的な思考力を身につけながら指導内容の修得に努める。
	後期	高等学校数学科教員の資質として必要となる、数学に関する基本的な知識・技能を修得するとともに、数学教育に関する学習内容の定着と、数学的活動を通して論理的な思考力と表現力を身につけながら指導内容の理解の充実を図り修得に努める。
2年次	前期	高等学校学習指導要領を基にして、中学校数学との接続について理解するとともに、資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基本的な知識と数学的な見方・考え方を働かせながら、学年発達や教材観等を考慮した指導の意義について理解する。
	後期	中学校学習指導要領を基にして、高等学校数学と関連する内容、各学年・科目の領域の内容と数学的な見方・考え方を理解するとともに、資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基礎的な知識と数学的な見方・考え方を身につけ、協働的な学びによる教材研究、学習指導案の作成を通して理解を深める。
3年次	前期	中学校数学と高等学校数学における系統性に留意するとともに、その発達段階に応じた数学的活動の在り方を踏まえ、高等学校数学における主体的・対話的で深い学びを目指した各内容に関わる教材研究、学習指導に関わる幅広い知識・技能、学習指導の方法、評価の方法について理解する。
	後期	中学校・高等学校の数学科授業における効果的な学習指導、効果的な授業展開、効果的な教材について理解するとともに、数学教育における数学の実用的・応用的側面をふまえた指導内容の必要性について理解を深める。
4年次	前期	高等学校の数学科授業における学習指導や教材開発の意義について理解するとともに、模擬授業を通して「教育実習」を想定して実践力を身につけ、事象を数理的に考察し数理を社会の諸問題に活用する意義を理解する。
	後期	高等学校の数学教育における数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの必要性を理解するとともに、デジタル教材における活用のスキル、論理的に議論するスキル、「教育実習」を通して身につけたスキルを踏まえ、実践力の強化と修得に努める。

様式第7号ウ（教諭）

<現代教育学科>（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目		大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 C		教職概論	代数学Ⅰ		スポーツ実習A	
					幾何学Ⅰ		英語コミュニケーションA	
							情報処理演習Ⅰ	
	後期	2 B		教育原理	代数学Ⅱ		スポーツ実習B	幼児教育実践論
		2 E		教育心理学	解析学Ⅰ		運動の科学	小学校一日見学
		2 G		教育課程論			情報処理演習Ⅱ	数理科学入門
								算数科概論
2年次	前期	1 A		数学科指導法Ⅰ	幾何学Ⅱ			西洋哲学
		2 E		発達心理学	確率・統計学Ⅰ			学校インターンシップ
		2 F		特別支援教育入門A	コンピュータ概論			統計の基礎
		3 IQ		教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	プログラミングⅠ			算数学
		3 R		ICT活用の理論と実践				
	後期	1 A		数学科指導法Ⅱ	解析学Ⅱ		日本国憲法	東洋思想
		3 J		特別活動指導法（中等）	プログラミングⅡ			算数科指導法
		3 M		教育相談（中等）				
3年次	前期	3 LN		生徒・進路指導論	確率・統計学Ⅱ			生命倫理
					情報と社会			プレゼンテーション実践
								数学史
	後期	2 D		教育法制論	曲面論・多様体論			プログラミング教育実践
					微分積分学			数学的リテラシー
					学校データとセキュリティ			
4年次	前期	4		数学科教育実習（中）				算数科実践演習（つくろう！算数科）
								算数・数学における学習者のメタ認知
	後期	4		教職実践演習（中・高）				